

一人で、どんな仕事でもできるように、頑張りたいと思います。



海谷 俊樹 さん
 【間長瀬・19歳】

このコーナーでは、市内で働く元気でフレッシュな皆さんを紹介していきます。
 今回は、高校を卒業後、眼科医療機器の製造会社社に勤務している海谷俊樹さんに、お話をうかがいました。

— どのような仕事をされていますか？
 電子部品を基板に、はんだ付けをしたり、配線をコネクターにつなぐ作業をしています。はんだ付けは、はんだごてを基板に当て過ぎないように、素早く行うよう心掛けています。配線作業は、取り付けを間違えないように、慎重に行っています。



— 今後の抱負をお願いします。
 グループ作業なので、人思いやり、人付き合いを大切に、先輩の皆さんにいろいろ教えていただきながら、どんな仕事でも、こなせるように頑張っていきたいです。

— 今の仕事を選んだ理由はありますか？
 高校の電気科を卒業したので、学校で学んだ技術を生かしたいと思いました。高校での、はんだ付けの実習が、役に立っています。

また、物を造ることが好きだったので、今の仕事を選びました。

— 休日にはどのような過ごし方をしていますか。趣味はありますか。
 趣味は、中学生の時から始めたスノーボードです。

— 中野市にはどのようなイメージを持っていますか。
 農業が盛んな所で、果物がおいしいと思います。特に、リンゴやモモが好きです。

— 今後の抱負をお願いします。
 中野市にはどのようなイメージを持っていますか。農業が盛んな所で、果物がおいしいと思います。特に、リンゴやモモが好きです。

クイズの答えと、住所、氏名、年齢、電話番号を記入のうえ、日ごろ感じていることを書き添えて、次の宛先まで送付してください。
 締め切り 10月25日(月)必着
 ※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

383-8614 中野市三好町一丁目 3番19号
 中野市役所 庶務課秘書広報係
 住所・氏名・年齢・電話番号

■今月のプレゼント
 月の兔ストラップ
 ……5名

問題
 土偶の愛称が、「●●●ビーナズ」に決定しました。

継承 中野が誇る伝統文化

第29回 ちぎり絵制作者 岩月友子 さん

ちぎり絵とは

さまざまな種類の和紙から色合いや繊維の質感など、作品のイメージに合ったものを選び、工夫を凝らして丁寧に手でちぎりながら、図案に沿って貼り付ける「ちぎり絵」。

初めて題材となる図案を写生し、それを台紙に写した後、チャコペンと呼ばれる複写用の紙を挟んで上からなぞって和紙に型を写し、繊維の向きに気を付けながらちぎった断片を大和のりで貼り付けていきます。

岩月さんがちぎり絵を始めたのは今から約30年前。小布施町で個展を開いていた池田みさ子さん(野沢温泉村)と出会ったことが縁で、月1回、池田さんの教室に通うようになり、そこから10年間通い続けました。



▲徹夜で制作することもあると語る、岩月さん

池田さんの師が名古屋にいた縁もあり、岩月さんは毎年7月に名古屋で開かれる作品展にも数多く出品し、受賞経験も6回とかなりの腕前です。現在、岩月さんは、中野市シニア大学の講師を務めるなど幅広く活躍されています。今までの約百の作品を手掛けてきましたが、制作には時間がかかり、年に3点完成させるのが精一杯だそうです。

ちぎり絵の魅力とは

和紙独特の繊維が生み出す質感、柔らかさには何とも言えない気持ち良さがあります。また写真でなく、自ら写生した絵を題材として使用するため、完成したときの喜びは倍になります。時間もかかり苦労が多い創作も、終わってみれば楽しさで満たされます。指導する立場になつてから、多くの方々と出会い、楽しい時間を共有できたからこそ、今までちぎり絵を続けていくことができたと思います。

皆さんへのメッセージ
 毎日の楽しみが生きがいとなり、その積み重ねこそが、豊かな人生を送るために大切なのだと思います。

市民リレーインタビュー 走者 キャッチボール

No.37 阿部一博さんから紹介された



町田 浩子 さん
 (団体職員・岩船)

①自己紹介
 趣味は読書で、最近読んだ作家は町田康です。休日は買い物をしたり、友人たちと遠出をしたりして楽しんでいます。

②今後チャレンジしたいこと
 スポーツの秋らしくソフトバレーボールやフィットネスに挑戦したいです。また、今年から生け花を始めたので、季節の草花をいろいろ生けてみたいと思います。

③これからのまちづくりに望むこと
 中野市の農産物は全国に誇れるものだと思うので、これからも農業が発展していく中野市であってほしいです。

大工になりたい



中野小学校 6年 湯出川 一樹 くん

ぼくの夢は大工になることです。
 なぜ大工かというと、学校の授業の中で一番図工が好きで、ものを作ることが大好きだからです。
 大工になったら、木で大きな家を作りたいです。それで、あちこちにぼくが作った家があるようにしたいです。そして、お金がたまったら、お父さんとお母

さんが住む家を建てて親孝行したいです。
 大工は人に家を作る仕事なので、家作りに命をかけて、欠かん住宅は絶対に作らないようにしたいです。そして、家を買う人に「あそここの家がいいな」と言ってもらえるような家を作りたいです。
 大工になるためには、頭が良くなるとはいけません。大工はぼくにとって夢だけど、まだ夢でしかありません。
 今からたくさん勉強をして、大人の自分が大工になれるように、頑張っていきたいです。



No.66